

未曾有の被害をもたらした東日本大震災後、地域防災の担い手として役割が再認識されつつある消防団。海老名市には15の消防分団があります(1ヶ分団は現在休止中)。団員の皆さんは、普段それぞれ会社員や自営業などの仕事を持ちながら、災害発生時にはいち早く現場に駆けつけ、消防隊員と連携し消火活動や人命救助、避難誘導などを行っています。また、災害時以外にも、火災予防

活動や地域行事に参加するなど、地域の防災リーダーとして、私たちのまちを守ってくれています。今号では、災害時での連携の確認と、初期消火活動の向上を目的として行われた、消防署と消防団による合同訓練の様子を紹介します。当日は、消防ポンプ車の水量が不足したと想定した消火訓練と、防火水槽から水をくみ上げる機材の取り扱い指導が行われました。

① 延焼を想定した建物への消火訓練
消防団のポンプ車が防火水槽から水をくみ上げ、何本もホースを延長。消防ポンプ車へと中継送水し、延焼を想定した火点的に放水するまでの流れを行いました。消防隊員の指示を受けながら、真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



② 可搬ポンプの取り扱い訓練
消防団員の交代などにより、可搬ポンプを使える人が少なくなっていたのが課題となっていたため、機材の取り扱いの説明から、実際に放水するまでを行いました。



③ 訓練後、市消防団・山田団長から。「訓練で行った以外のことは本番では出来ない。地元の自治会にも指導し、これからも地域を守るんだという責任感をもって活動を続けて欲しい。」

現場インタビュー／第4分団長さんに聞きました
「何かやらなくては」という使命感を胸に

普段は車の整備士をしているという、入団12年目、第4分団長の深須さん。「仕事でも火災が起これば出動し、いつ何時でも動ける体制を常に整えておく。時間の調整は大変だけれど、責任を持って活動を続けています。」と、消防団員として、長年にわたり活動を続けている意気込みを話してくれました。信頼できる仲間と一緒に、『何かやらなくては』という使命感を胸に抱き、日々、地域の防災リーダーとして私たちのまちの安全と安心を守ってくれています。



▲第4分団長 深須康宏さん



「第4分団は、理屈ではないところで繋がっている、いいやつら」と笑顔で話す深須分団長。団員たちのこの笑顔を見れば、チームワークの良さが分かりますね。

消防団新規団員を募集
消防団は市の消防機関です。非常勤特別職として報酬などを支給するほか、補償制度があります。市内在住・在勤の18歳以上の健康な方なら、どなたでも応募できます。

【主な活動内容】
◆災害時：消火活動、救助・救出活動、警戒巡視など
◆平常時：消火訓練、消火栓・防火水槽の点検、防火啓発活動など

問い合わせは、お近くの消防団または消防総務課へ。

消防団協力事業所を新たに2社認定しました

従業員が消防団に入団しやすい環境や、活動に協力している2事業所を、新たに認定しました。

▲自動車部品工業(株)
▲泉工業(株)

今回の特集記事と消防署が行った消防訓練の様子がインターネット放送局で配信されています。皆さん、ぜひご覧ください。
<http://www.ebinafield-itv.jp/>

海老名市インターネット放送局 検索